

7/16 朝日

法治無視を物語る拷問の痕

無職

(滋賀県 83)

私が40代の頃から親しい、大
学総長も務めた経済学者の先生
がおられた。37歳年上の温厚な
方だが、手指の何本かは第一関
節で折れ曲がり変形していた。

先生は、1983年のある日
突然、自宅に刑事が来て治安維
持法違反で逮捕されたという。

「告白文」を書こう求められ
たが告白すべきことはないと言
い続けた。刑事は粗暴になり、
先生は失神しても繰り返す道場
の畳に叩きつけられ、さびびる手
指を一本ずつ、第一関節を曲げ
た所に体重をかけて潰された。
指はその拷問の骨折痕だ。やっ

この釈放後に勤務先の大学を追
われ、終戦まで苦労された。

過去には、国家権力の思想に
くみしない知識人らへの圧力と
して恣意的な拷問がまかり通っ
た。不当な暴力を訴える所もな
い庶民は、災いが及ばぬように
口や目を閉ざした。やがて新聞
報道や世論も権力に迎合し「聖
戦完遂」「一辺倒となり」「一億
玉碎」へと突っ走ったのだ。

法治を軽んじ、世論を無視し
て、為政者が自分の思想で「解
釈」「判断する」政治とはこ
ういふことだ。先の戦争でたご
った道を顧みれば、いまの政治
の流れを一般国民も報道機関も
甘く見過ぎてしまっていると思う。

公明党これで良いのですか

主婦

(奈良県 82)

安保法制が成立へと力ず
くで進められ、止める方法
が分かりません。私は非力
で無力なため、他に力を借
りねばなりません。

公明党の皆さんの役割は
何でしたか。「大衆ととも
に」の立憲精神で「福祉・
教育・平和」重視の国造り
を目指していたはず。理
念の柱である平和を、こ
んなにもたやすくぐまかし
てしまうのですか。本当に
これでいいのですか。国民
のためと胸が張れますか。
世論の多数が疑問や反対の
意見を持ち、複数の憲法學
者が「違憲」だと指摘して

いるこの法案。公明党は暴
走のブレーキになってくれ
ると思っていたのに、自民
党と一緒に頑張って数の力で
押し通すつもりですか。

立憲の精神、党の理念は
権力とともにあるのか、国
民とともにあるのか。うそ
やぐまかしてなく国民とど
もにあるところのなり、そ
の謙虚さとプライドを国会
の場で見せていたください
ものです。

安倍晋三首相一人が交わ
したアメリカとの約束が、
憲法という国民との約束ま
りも優先されるといふこと
はあってはならないことで
す。公明党議員の方々には
再考を願ってやみませぬ。

「お国に命」の時代に戻すな

無職

(京都府 84)

ふと見つけた私の昔の日記。
母が亡くなった1970年、当
時4歳だった私の娘が発した言
葉を書いていた。「おばあさん
になるのよ、死ぬのよ、庵主さ
ん(尼僧)になるのよ、お墓に
入るとは大嫌いや」。墓と、
月命日に来訪する尼僧は祖母の
死を実感させるもので、子ども
心に人の死に対して精いつはら
いの反発心を表したのだらう。

私たち戦争世代の「死」とは
「お国のために」と教育されて
のものだった。「一機一艦」と
帰りの燃料を入れずに出撃した
特攻隊員。学業を捨てて戦艦に
ゲートル姿で出陣し、戦場に敵

った学生。私は学徒動員で飛行
機部品の研磨に追われた。戦争
に駆り出された最も若い世代の
我々は、人の心も生活も乱す戦
争の恐ろしさを実感している。

安全保障関連法案が衆院特別
委で強行採決された。あの時代
に絶対に戻ってはならないが、
戻りつつあるのではと感じる。
戦争を知らない娘が、今の政治
や世の中をどう見ているか聞い
たことはなかったが、「戦争法
案反対」の署名に進んで協力し
ていることを先日知った。大変
心強くなれたい。

我々世代が今すべきことは、
戦争を後世に語り継ぐことだ。
元気な同年代の方々、日本のた
めにぜひ体験を伝えてほしい。